

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目 次

“図書館員に聞いてみよう。”実施中！	1
レポート・論文を書くために ～図書館のライティング支援～	2
《ブックトーク》 夏休みに学生に読んでもらいたい本	3
東日本大震災の医療支援に参加して — 図書館員が見てきた宮城県南三陸町 —	5
《図書室紹介シリーズ》 新・工学中央図書室オープン	7
「EU 展 + EU クイズ 2011『欧州単一通貨ユーロ』」 開催報告	9
本学教員著作物寄贈リスト	10
平成 22 年度附属図書館統計	11
附属図書館 2011 年秋季特別展のお知らせ	13
ホームカミングデイ附属図書館行事紹介	13

『図書館へ行こう。』キャンペーン第 2 弾 “図書館員に聞いてみよう。”実施中！



皆さんはもう、キャンパスのあちこちにある図書館・図書室に行ってみましたか。利用してみて、何か困ったことはありませんでしたか？

たとえば、

- ・授業で紹介された本が見つからない
 - ・レポートに使う論文の探し方がわからない
 - ・図書館にない資料を入手したい
 - ・検索のしかたが合っているか自信がない
- などなど…

図書館・図書室には、それぞれの所蔵資料や専門分野の調べものに精通した図書館員がおり、皆さんの学習や研究のお手伝いをしています。

わからないことがあったら、どうぞ窓口の職員まで、お気軽に声をおかけください。

レポート・論文を書くために ～図書館のライティング支援～

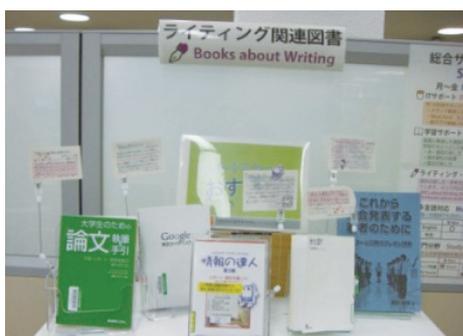
中央図書館2階のラーニング・コモンズは、熱心にグループ学習をする学生で、連日賑わっています。図書館では、学習環境整備の次なるステップとして、人的支援、特にライティングに関する支援を進めています。学生のみなさんが、レポートや論文を作成する際に役立つサービスや情報をご紹介します。

◆ライティング・サポートエリア

▶ラーニング・コモンズ北東のライティング・サポートエリアには、マルチディスプレイを設置した二人掛けのワーキングデスクがあり、二人で相談しながら、あるいは指導を受けながら、作業することができます。このエリアのPCには、通常の文書作成ソフトのほか、Adobe社の各種デザインソフトが搭載されています。



▶ライティング関連図書コーナーには、レポート・論文の書き方についてはもちろん、大学での学び方、研究の基本、英文ライティングなどに関する図書を揃えています。レポートへの取り組み方がわからないときは、まず、これらの図書を1～2冊手に取って読んでみてください。近くのAVエリアには、具体的な手順や方法を解説したDVDもあります。



▶総合サポートカウンターでは、平日午後3時から7時の間、日本語・中国語・英語で、大学院生スタッフが皆さんの学習のお手伝いをしています。英語論文校正ソフトをインストールしたPCの貸出も行っています。英語論文の仕上げの際にご利用ください。

◆ライティング関連の講習会など

▶レポート書き方講座

高等教育研究センターの教員と連携し、毎年、学部1・2年生を対象に開催しています。演習を含んだ講座は大変好評で、多数の学生が参加しています。今年は全4回の連続講座となる予定で、9月に第2回を開催します。日程はホームページ等でご案内します。この機会にぜひ、受講されることをお勧めします。

▶TAのためのライティングセミナー

基礎セミナーなどのTAを担当する大学院生を対象に、TAとしてどのような支援が必要かを学ぶセミナーを実施しています。

▶Mei-Writing

教養教育院のライティング・ユニットのワークショップが、ラーニング・コモンズを会場として開かれています。本学の教職員・大学院生であれば自由に参加できます。



▶図書館主催の各種講習会

レポートや論文を書く際に欠かせない調べ物や文献収集の方法に関する講習会を、春から秋にかけて、順次開催しています。

今後も関連部門との連携を深めつつ、ライティング支援の充実をはかっていく予定です。皆様のご利用・ご参加をお待ちしています。
(情報サービス課)

《ブックトーク》

夏休みに学生に読んでもらいたい本

「ブックトーク」の第2回です。今回は国際言語文化研究科、情報科学研究科、環境学研究科の先生方から、長い夏休みのお供にピッタリな本を紹介していただきました。

『シリーズ中国近現代史』（全6巻）

岩波書店 2010年～刊行中

このシリーズは、19世紀から今日までの中国の歩みをたどる通史である。2011年6月現在、第1巻『清朝と近代世界』（吉澤誠一郎著）、第2巻『近代国家への模索』（川島真著）、第3巻『革命とナショナリズム』（石川禎浩著）、第4巻『社会主義への挑戦』（久保亨著）が刊行されている。各巻では、それぞれの時代の中国における政治・外交・社会などの様々な側面が概説されており、近現代中国の歴史に初めて触れる人にとっては、興味をそそられる読み物であろう。この新シリーズの特徴は、これまでの膨大な中国近現代史の研究成果をまとめられているだけでなく、第一線で活躍する著者らによって新たな発見や解釈が加えられている点である。たとえば、近年新たに公開された蒋介石日記の精査により、これまでの定説を覆す部分も見られる。この意味では、中国近現代史にある程度理解のある人にも一読する価値があると思われる。

（国際言語文化研究科 助教 楊韜）

＜所蔵：中央館ほか＞

『超巨大地震がやってきた』

—スマトラ沖地震津波に学べ—

木股文昭・田中重好・木村玲欧編

時事通信社 2006年刊

およそ6年半前に史上最悪の津波災害がインド洋沿岸で発生しました。この本は、最大被災地のインドネシアのアチェで起こった出来事について、名古屋大学の調査団による現地調査をもとに書かれたものです。翻って見れば、3月11日の大震災で、日本中が思考停止に陥ったのかも知れません。この国では、どうも、大学生は暇な無償の労働力とされているようです。

最高学府の大学でさえ、誰しもが持つボランティア精神に殊更に訴えて動員しようとするに至っては、もはや末期的状態と言わざるを得ません。アチェの復興庁長官を務めたクントロさんに言わせれば、被災地には専門的な立場からの支援が必要で、だから大学生の役割は大きいのだそうです。おそらく、今後みなさんが専門的知見から貢献すべきことがあるはずですが、自分の関わった本を紹介するのは品のないことですが、この本を読んで、いま何を学ぶ必要があるかを考えて欲しいと思います。

（環境学研究科 教授 高橋誠）

＜所蔵：中央館＞

『論理学をつくる』

戸田山和久著 名古屋大学出版会 2000年刊

まとまった時間のあるときに、大量の小編を次から次へと慌ただしく読むのはもったいない（それは忙しいとき向き）。「定評ある分厚い教科書」を読み通す（+やり通す）と、生きるための基礎体力として、いつまでもからだに残ると思います。ということで、定評ある分厚い教科書を挙げました。やり通すには信念が必要で、定評あることはその信念を支えてくれます（これは盲信することとは違います）。

月並みですが、信じるに足る情報・知識が何かを見極めるロジックのセンス、記号を用いて世界を論理的に表現し動かす技術、この両方がなければ、ただ批判的な人間か、意味もわからず危険な生産を続ける人間か、どちらかになってしまいます。それじゃよくないのは、誰の目にも明らかでしょう。

どの学部の人にも、どの学年の人にも、お薦めできる本です。

（情報科学研究科 准教授 秋庭史典）

＜所蔵：中央館ほか＞

『わたしがちいさかったときに』
長田新編 童心社 2004年刊

本書は1945年8月16日に広島で暮らしていた小学生から高校生まだが、6年後に学校の宿題で、原爆投下の日を回憶した作文である。いくつかは未完のまま。「ようちえんの先生とにげてみると むこうの山は 燃えていた みんな なにも いいませんでした」今年3.11、石碑に刻まれた言葉や伝承に従って殆どの住民が津波を逃れた村がある。研究者でもルポライターでもない人々の体験から出た、時にたどたどしいことばを人智として真摯に記し、受けとめ、伝えていくことの意味を改めて考えてほしい。「日本人は、なぜ人のことでも、悲しみと苦しみを分けあおうとしないのでしょうか。」この問いは過去のものとなったろうか？編者である広島大学名誉教授、長田新氏は長野県出身。自らが被ばく者であり、平和教育に献身した末、スイスのペスタロッツの墓前に眠っている。

(国際言語文化研究科 准教授 星野幸代)

<所蔵：中央館>

『中世日本の予言書 — “未来記” を読む』
小峯和明著 岩波書店 2007年刊

中世の日本において記された『野馬台詩』と『聖徳太子未来記』の二つの未来記(予言書)を取り上げ、中世の各時期にどのように読まれ、註釈されたのかを学術的に読み解いている。未来記は一般に偽書とされるが、その成立の時代背景や成立過程を考察することは、この時代を理解する上で重要であろう。今まで、あまり注目されてこなかった未来記を歴史資料として検証する作者の姿勢が、その後実に様々な示唆を与えてくれた。『野馬台詩』などは中世で読まれたとされるが、江戸時代になってもこの本を

元に「野暮台詩」などと題する落書も出回っているのであり、長く読み継がれたと考えられる。作者とパリで一緒に仕事をした時、いただいたこの本は、元々東京大学での講義録が元になっていると本人から聞いた。そして、旅先で読み、大いに感激したのである。一般的な読み物としても、学術書としても様々なインスピレーションを与えてくれる是非読んでいただきたい本である。

(国際言語文化研究科 助教 伊藤信博)

<所蔵：中央館>

『他者の苦痛へのまなざし』
スーザン・ソントグ著 みすず書房 2003年刊

写真は、不思議な存在です。とても身近な存在なのに、じっくりと見る機会は意外にありません。稀に気になった写真をよく見ていると、そのリアリティに気分が悪くなったりするのですが、反対に感動したりすることもあります。でもそれも、しばらくすると慣れてしまって、また見飛ばしてしまったりするんですね。

ソントグは、戦争の悲惨さを伝えようとして撮られた写真が、逆にさらなる戦意をかきたててきた、との指摘から始めます。では、日々写真を通して伝えられてくる他者の苦痛を、私たちはどのように眼差すのでしょうか。「市民が見つめた9.11写真展」、ジャック・カロやフランシスコ・ゴヤの戦争の惨禍を描いた版画にもふれた後に、巻末で彼女は、ひとつの作品を取り上げます。カナダ人アーティスト、ジェフ・ウォールの作品《戦死した兵士たちは語る》です。ということで、本も読んでもらいたいのですが、この写真をゆっくり見ながら考えてほしいですね。

(情報科学研究科 准教授 茂登山清文)

<所蔵：中央館ほか>

東日本大震災の医療支援に参加して — 図書館員が見てきた宮城県南三陸町 —

蒲 生 英 博

懐中電灯を手に、暗い階段を下りていく。2階ホールの一部を仕切った仮設診療所の横を通り、外階段へ出て1階まで下りると、外気はかなり冷たい。トイレは隣の体育館の1階にしか無い。電気は使えない。水道の復旧は、さらに時間がかかりそうだ。トイレに置かれたペットボトルの水で手を洗う。月明かりの下で、携帯電話が使えないことを確認する。名古屋がはるか遠くに感じられた。医師と看護師がいる3階の当直室まで、階段を戻っていく。

名古屋大学医学部附属病院では、東日本大震災への支援として、医薬品・医療材料などの物資輸送、放射線測定チームの派遣、被災患者の受入態勢の整備などとともに、医療支援チームを派遣してきた。何か自分にもできることは無いかな、と考えていた時に派遣の話があり、医療支援チームの一員として、図書館員に何ができるかを考えることもなく即断した。今回のチームは、医師2名、看護師2名、薬剤師1名、そして事務職員として私が参加した。派遣先は、津波による甚大な被害を受けた宮城県本吉郡南三陸町である。

何事もなく明けた南三陸町荒砥^{あらと}の避難所での当直の翌朝、車で10分ほどのベイサイドアリーナ^{とめ}へ向かい、内陸部にある登米市のホテルから来た当直以外のメンバーと合流する。ベイサイドアリーナは、南三陸町の総合体育館であり、津波による被害を受けなかったため、被災住民の避難場所として、救援物資の集積場として、また医療統括本部として、多くの人、物資、情報が集まってくる。毎朝7時半から、敷地内の黄色いテントで医療統括本部と支援団体との全体会議を行う。医療の自立・再生を目指し、元々の南三陸町の医療へと移行していく、という本部の方針が話される。各地から集まってきた医療支援チームがいつまでもいるわけではない、ということである。



ベイサイドアリーナ

ベイサイドアリーナへ初めてきたのは、登米市へ着いた初日の夕刻だった。ホテルで国立大学の医療支援チームのメンバーである千葉大学から業務を引き継いだ後、車で本吉街道を東へ、三陸海岸へ向かって進んだ。20分ほど山道を走り、視界が開けてくると、瓦礫の原となった南三陸町が目の前に広がっていた。現実のものと思えず、胸が張り裂けるようだった。ベイサイドアリーナは瓦礫の町を抜けた先にあった。建物の入り口でカップ麺を大事そうにお盆に載せている人たちとすれ違った。夕食だった。重苦しい気分のままホテルへ戻ったが、その日の内にチームのメンバーと話し合ったことが良かった。全員の真摯な決意が交わされ、改めて今回の支援業務への心構えができたように思った。

ベイサイドアリーナでの全体会議が終わると、荒砥へ戻り、2日目の診療が9時に始まった。高血圧、糖尿病などの慢性疾患の患者が多い。膝が痛くて和式トイレが苦痛で体調を崩した女性もいた。11時半に炊き出しを朝食としていただく。処方する薬が不足し、車でベイサイドアリーナまで取りに行く。救援物資の中から、和式トイレに被せるだけで洋式トイレに早変わりする便座をもらってきた。設置することで閉まらなくなった扉の代わりに、現地の訪問看護

師たちが手製のカーテンを吊ってくれた。母親よりは年下のこの女性から何度も感謝され、自宅での介護の経験が役に立ったようで、ふと母の顔を思い浮かべた。



荒砥の仮設診療所

派遣されることがほぼ決まった3月末、名古屋大学の図書館員に、被災地の子どもたちに絵本や童話を届けよう、と呼びかけ、273冊の本が集まった。一部は、前のチームに託し、残りは宅配便で登米市のホテル宛てに送った。荒砥の仮設診療所に置かれていた本は、荒砥保育園へ、残りは志津川小学校図書室へ寄贈した。現地の子どもたちに圧倒的に人気だったのは漫画であったが、その内に、絵本や童話も子どもたちの愛読書となることを願っている。図書館員らしいことが少しできたかもしれない。



荒砥の仮設診療所横の図書コーナー

南三陸町が公表している人口は2月末日現在で、17,666人であるが、震災直後、その内、1万人が安否不明とされていた。医療統括本部の資料によると、私たちがいた4月20日には、町内の44か所、民家を含むとそれ以上の避難所に、まだ4,326人が避難されていた。復興にはまだ長い時間が必要となるが、すべての被災地の一日も早い復興を心から祈っている。



志津川小学校体育館での自治会等とのミーティング

医療支援チームの記録

- 4月15日（金）午後、新幹線で出発。東京大学から車で宇都宮まで行き、宿泊
- 4月16日（土）13時前に登米市のホテルに到着。千葉大学から引き継ぎ。南三陸町下見
- 4月17日（日）ベイサイドアリーナで最初の全体会議、ボランティア登録。荒砥地区にて診療、往診。当直3名
- 4月18日（月）長崎DMATと荒砥地区の業務分担、診療、往診。荒砥地区の撤収作業。当直2名
- 4月19日（火）志津川小学校に拠点移動。AMDAから引き継ぎ。診療、回診
- 4月20日（水）志津川小学校にて診療。東京大学チームに引き継ぎ。撤収。19時登米を出発し、24時宇都宮に到着。宿泊
- 4月21日（木）東京大学に車を置いて、新幹線で帰名

（がもう・ひでひろ 医学部分館）

《図書室紹介シリーズ》

新・工学中央図書室オープン

吉岡 美智子

みなさん、この春、東山キャンパスに、新しい建物が誕生したのをご存じでしょうか？地下鉄の2番出口を出て本山方面に進むと右手に現れる、ガラスの壁と斜めのひさしが特徴的な、大きな建物です。



ES 総合館

この新しい建物、ES総合館（正式名称：工学研究科中央棟・素粒子宇宙研究棟）は、この4月に竣工し、6月1日に完成披露式典が行われました。2008年にノーベル物理学賞を受賞された益川特別教授の研究室や、ノーベル賞展示室、講義室、講堂、さらにはフレンチレストランも備えた、複合的な研究施設となっています。

今回ご紹介する工学中央図書室は、このできたてほやほやのES総合館の1階にオープンしました。

新工学中央図書室は、以前の中央図書室、材料図書室、建築学図書室を統合した図書室となっています。量子エネルギー工学、材料工学、応用物理学、建築学分野の資料を主に所蔵しています。工学部にはこの中央図書室の他に、化学・生物系図書室、電気・情報図書室、機械・電子機械・航空図書室、土木系図書室の4つの専攻図書室があり、各分野の資料を所蔵しています。

ES総合館に面した通りを歩くと、ガラス張りのため、外から図書室の様子がよく見えます。



通りからの外観

それでは、ES総合館内の入口から、図書室に入ってみましょう。図書室に入ると右手にブラウジングコーナー、左手が貸出・返却・利用案内の受付カウンターと事務室になっています。名古屋大学の方は自由に入室いただけます。学外の方は、一言カウンターにお声掛けください。正面には、案内板と閲覧機の向こうに、ガラス越しに外の通りが見えます。天井も高く、空間の広がりを感じられるようになっています。



ブラウジングコーナー

ブラウジングコーナーでは、建築関係の新着

雑誌の閲覧、パソコンでの資料の検索ができます。壁には床から天井まで一面に升目の棚が施され、この升目に建築分野の新着雑誌の一部を配架しています。建築学の専攻の方はもちろん、他の専攻・部局の方も、美しい写真が表紙を飾る雑誌をぜひ手にとってご覧ください。

それでは、書架に行ってみましょう。入口から進むと案内板があり、右手の開架には、新着雑誌と、1990年以降に刊行された図書を配架しています。

左手に長く続く開架には、建築独自分類記号が72で始まる図書を配架しています。両開架に隣接した壁は、ブラウジングコーナー同様、升目の棚になっています。下段には、地図や建築図集などの大型本を配架しました。

左手の建築の開架を奥に進むと、集密書庫と呼ばれる、移動式の書庫があります。こちらには、1989年以前に刊行された図書、建築独自分類記号が72以外で始まる図書、雑誌のバックナンバー、博士論文、重要文化財に関する報告書等を配架しています。



集密書庫

書庫は、天井の高さを利用して、9段組のとても背の高い書庫になっています。中に入ると、一面本に囲まれて、静謐な雰囲気を楽しむことができます。高い場所の資料を利用されるとき

のために4段のステップを用意していますが、高所が苦手な方は、遠慮なく職員にお申し出ください。

閲覧席は、図書室中央部に6人掛けの机で24席、窓に面した席が27席あります。図書室の両端には小さなベンチも備え付けており、本を手にとってすぐに座って読める環境になっています。

窓に面した閲覧席では、外の通りの様子がとてもよく見えます。勉強で疲れたときは、外を眺めて、頭をリフレッシュさせてもよいですね。



窓側閲覧席

貸出・返却・その他お問い合わせの際は、入口のカウンターにお越し下さい。複写をされる場合は、カウンター横に私費用（カード式）のコピー機を1台設置していますので、ご利用ください。

工学中央図書室は、これまで移転作業により、利用者の方には長い間ご不便をお掛けしていました。新しい中央図書室では、豊富な資料と学習しやすい環境を用意してお待ちしていますので、ぜひお気軽に足を運んでご利用ください。また、まだオープンしたての図書室ですので、より利用しやすい図書室とするために、皆様のご意見をもとに改善していければと思います。新しい工学中央図書室、ならびに各専攻図書室を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(よしおか・みちこ 工学図書室)

「EU展+EUクイズ2011 『欧州単一通貨ユーロ』」開催報告

名古屋大学EU情報センター（経済学図書室内）では5月9日（月）～18日（水）の8日間、今年も例年通り、経済学図書室ラウンジにてEU展+EUクイズを開催いたしました。このイベントは、毎年5月9日の「ヨーロッパデー」を中心に、EUへの理解を広め深めるために日本全国で開催される「日・EUフレンドシップウィーク」の一環であり、本学では2006年より参加しているものです。



今年は、新たな導入国を迎え入れた、通貨・ユーロをテーマとしました。ユーロは1950年代から進められてきた欧州の経済統合が実を結び、1999年1月1日からEU加盟国のうち11カ国で導入された欧州単一通貨です。本年2011年1月1日、旧ソ連の国で初めてエストニアが導入、参加国がEU加盟27カ国のうち17カ国となりました。実際の紙幣と硬貨は2002年1月から流通を開始し、ユーロ圏では2002年2月28日をもって、旧各国通貨が使えなくなっています。この



変化はユーロ圏内を旅行すればすぐに感じられる身近なもの。しかしユーロについての知識は、意外に日本では浸透していません。「ユーロってどこの国で使えるの?」「どんなデザインなの?」「ユーロ圏になるための条

件は?」「ユーロの歴史を知りたい!」…そんな疑問にこたえられるミニ展示+クイズを行ないました。

年表を中心としたユーロへの道のりの説明や、ユーロ紙幣のデザイン、各国のオリジナルである硬貨のデザインやユーロ未導入のEU加盟国の現状、ユーロを導入するための収斂基準、クイズ形式のユーロへのよくある疑問…などの掲示物、ユーロに関連したアプリをインストールした自由に利用できるノートPC、加盟各国の国旗を立てた大型地図などを展示しました。

EUプレゼントクイズでは、参加者にEUオリジナルのUSBメモリやトートバッグ、ピンバッジなど7種類からえらべるプレゼントを用意、大好評のうちに準備した殆どすべてのグッズがなくなりました。今年のクイズも、非常に沢山の方に参加して頂き、EUについての知識を深め、かつ身近に感じて頂く一助になったと思います。



1973年に日本で2番目に、名古屋大学経済学図書室内に設立された名古屋大学EU情報センターは、EUから寄贈される公式刊行物の収集・整理をし、多くの方々の利用に供しています。また常時、経済学図書室ラウンジでEUに関する掲示や、ご自由にお取り頂ける配布資料の設置などを行なっています。今年のEU展後に模様替えして、更に充実したEU情報センターに、展示会以外の時季でも、是非お気軽にお立ち寄り下さい。

（名古屋大学EU情報センター

（経済学図書室内）

本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成23年3月～5月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(寄贈者の敬称は略します。)

所 属	寄 贈 者 名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配 置 場 所
国際開発研究科	木村 宏恒	開発政治学入門：途上国開発戦略におけるガバナンス	11739256	中央学3F 333.8/Ki
環境学研究科	堀田 典裕	自動車と建築：モータリゼーション時代の環境デザイン	11743278	中央学3F 518.84/H
環境学研究科	堀田 典裕	吉田初三郎の鳥瞰図を読む：描かれた近代日本の風景	11743275	中央学3F 291.038/H
環境学研究科	高橋 誠	Orang orang yang bertahan dari tsunami	41525978	中央図1F 377.28N/Kan
環境学研究科	高橋 誠	Proceedings of the international conference on coastal environment and management	41525977	中央図1F 377.28N/Kan
環境学研究科	高橋 誠	Geomorphological comparative research on natural disaster mitigation in the coastal regions of tropical Asia	41525969	中央図1F 377.28N/Kan
法 学 研 究 科	河野 正憲	Comparative studies on business tort litigation	41525781	中央図1F 329.85/St
法 学 研 究 科	河野 正憲	International contract litigation, arbitration and judicial responsibility in transnational disputes	41525780	中央図1F 329.5/St
文 学 研 究 科	林 謙一郎	大理日本四僧塔	11743295	中央図4F 185.5/Sy
医学系研究科 医学部保健学科	長谷川好規 島本佳寿広	胸部画像診断：エッセンシャル	11743283	中央学3F 492.433/H
工 学 研 究 科	岩田 哲	Fast software encryption : 17th international workshop, FSE 2010, Seoul, Korea, February 7 - 10, 2010 : revised selected papers	41525767	中央図4F 007.63/H
法 学 研 究 科	菅原 郁夫	弁護士のための法廷テクノロジー入門	11743301	中央図1F 327.12/Si
国際言語文化 研 究 科	虞 萍	冰心研究：女性・死・結婚	11737809	中央図4F 920.278/G
法 学 研 究 科	大屋 雄裕	「知の加工学」事始め：受容し、加工し、発信する日本の技法	11743864	中央図1F 304/Ma
情報科学研究科	中村 泰之	数学eラーニング：数式解答評価システムSTACKとMoodleによる理工系教育	11728101	中央学3F 410.7/N
医学系研究科	杉浦 伸一	注射剤・抗がん薬無菌調製ガイドライン	11743868	中央図1F 499.6/N
医学系研究科	杉浦 伸一	安全な薬剤投与のための医療材料の選び方・使い方	11743867	中央図1F 492.8/Su
医学系研究科	杉浦 伸一	抗がん薬調製マニュアル：抗悪性腫瘍剤の院内取扱い指針	11743866	中央図1F 499.6/Ki
医学系研究科	杉浦 伸一	症例から学ぶ輸液療法：基礎と臨床応用	11743865	中央図1F 492.26/Su
医学系研究科	杉浦 伸一	実践静脈栄養と経腸栄養 [基礎編]	11744467	中央図1F 492.26/Si
情報科学研究科	石井健一郎	わかりやすいパターン認識	11540142	中央学3F 007.13/I
情報科学研究科	石井健一郎	「情報」を学び直す	11585044	中央学3F 007.1/I
医学系研究科	磯部 健一	Stem cell therapy	41526207	中央図1F 491.11/I
法 学 研 究 科	高橋 祐介	ベーシック税法 第6版	11744466	中央図1F 345.12/O
医学系研究科	上田 裕一	心臓外科看護の知識と実際	11744873	中央図1F 492.926/U
名 誉 教 授	水谷字一郎	Hume-Rothery rules for structurally complex alloy phases	展示棚	展示棚
名 誉 教 授	前田 憲志	糖尿病が気になったら読む腎臓病の本：腎臓病・糖尿病 高血圧の人への最新治療	展示棚	展示棚
国際交流協 力 推 進 本 部	坂野 尚美	よりよい医療現場にするための活用術：社会支援とコミュニケーションのあり方	11745946	中央学3F 369.9/B
生命農学研究科	生源寺眞一	日本農業の真実	11745947	中央学S 612.1/Sy
工 学 研 究 科	井上順一郎 伊藤 博介	スピントロニクス	11730493	中央学3F 427.8/I
教育発達科 学 研 究 科	中谷 素之	学ぶ意欲を育てる人間関係づくり：動機づけの教育心理学	11581631	中央学3F 371.4/N
情報科学研究科	秋庭 史典	あたらしい美学をつくる	11746324	中央学3F 701.1/A

(資料管理掛)

平成22年度附属図書館蔵書冊数及び年間図書増減数・雑誌受入数

区 分	蔵書冊数 (H 23.3.31 現在)			平成22年度図書増減数					平成22年度雑誌受入種類数		
	和 書	洋 書	合 計	和 書		洋 書		合 計 (増)-(減)	和雑誌	洋雑誌	合 計
				受入(増)	除却等(減)	受入(増)	除却等(減)				
中央図書館	653,094	524,472	1,177,566	12,638	513	5,056	177	17,004	1,715	360	2,075
医学部分館	67,752	107,153	174,905	1,865	2,493	871	4,120	-3,877	528	490	1,018
医学部分館保健学図書館	36,238	6,895	43,133	1,409	0	118	0	1,527	302	46	348
文学図書館 ^{*1}	178,420	113,161	291,581	3,624	470	3,000	22	6,132	852	360	1,212
教育発達科学図書館	72,291	44,620	116,911	1,824	144	430	13	2,097	367	136	503
教育学部附属学校図書館	27,400	564	27,964	1,515	14	11	0	1,512	52	1	53
法学図書館	135,356	95,382	230,738	4,372	153	2,486	348	6,357	505	64	569
経済学図書館 ^{*2}	138,108	124,952	263,060	2,845	777	1,358	24	3,402	674	372	1,046
情報・言語合同図書館 ^{*3}	102,351	79,736	182,087	2,603	389	1,985	421	3,778	311	167	478
理学図書館 ^{*4}	33,272	160,944	194,216	1,686	140	2,701	574	3,673	247	706	953
工学図書館 ^{*5}	72,771	114,986	187,757	2,110	8,100	1,151	1,040	-5,879	715	214	929
生命学図書館 ^{*6}	52,791	49,461	102,252	2,268	704	395	182	1,777	368	95	463
国際開発図書館	29,180	32,166	61,346	1,047	85	1,349	443	1,868	88	140	228
環境医学研究所図書館	887	3,679	4,566	63	0	148	0	211	122	28	150
太陽地球環境研究所図書館	2,731	10,569	13,300	43	0	146	1	188	14	8	22
地球水循環研究センター図書館	3,959	12,377	16,336	130	299	101	70	-138	67	100	167
情報連携基盤センター図書館	2,741	4,720	7,461	309	1	620	0	928	32	2	34
アイソトープ総合センター図書館	213	125	338	12	1	6	0	17	5	1	6
留学生センター図書館	3,127	1,627	4,754	154	0	82	1	235	3	0	3
総合保健体育科学センター図書館	7,020	4,745	11,765	194	688	41	326	-779	22	12	34
合 計	1,619,702	1,492,334	3,112,036	40,711	14,971	22,055	7,762	40,033	6,989	3,302	10,291

※1 文学図書館の対象には、環境学研究所の一部を含む。
 ※2 経済学図書館の対象には、附属国際経済政策研究センターを含む。
 ※3 情報・言語合同図書館の対象には、情報文化学部及び国際言語文化研究所のほか、環境学研究所及び情報科学研究科の一部を含む。
 ※4 理学図書館の対象には、遺伝子実験施設及び年代測定資料研究センターのほか、環境学研究所の一部を含む。
 ※5 工学図書館の対象には、エコトピア科学研究所のほか、環境学研究所及び情報科学研究科の一部を含む。
 ※6 生命学図書館の対象には、生物機能開発利用研究センターを含む。

図書館利用状況 (平成 22 年度)

項 目	平成 21 年度	平成 22 年度	備 考
I サービス対象者	24,616 人	24,520 人	学部学生：10,109 人 院生：6,527 人 教員：3,466 人 職員：4,418 人
II 閲覧サービス			
1. 年間開館日数	356 日	355 日	うち土・日・祝日開館：117 日
2. 年間入館者数	763,326 人	853,777 人	うち学外者：41,848 人 一日平均：2,405 人
3. 館外貸出冊数	137,372 冊	135,889 冊	一日平均：383 冊
III 参考調査サービス			
1. 調査依頼者数	2,421 人	2,461 人	学内者：1,820 人 学外者：641 人 (来館者のみ) 延取扱件数：3,342 件 (E-mail, Fax を含む)
2. 他機関への調査依頼	6 件	6 件	
3. 情報検索利用件数 (専用端末)	12 件	4 件	官報：1 件 LexisNexis at lexis.com：3 件
4. CD-ROM/DVD の DB 利用件数	213 件	220 件	Powder Diffraction File (PDF) 2：178 件 明治大正 昭和の読売新聞：19 件 その他：23 件
IV 相互利用サービス (他機関)			
1. 図書貸出 (貸借受付件数)	1,333 件	1,200 件	国内件数：1,191 件 海外件数：9 件
2. 図書借受 (貸借依頼件数)	678 件	831 件	国内件数：776 件 海外件数：55 件
3. 文献複写受付件数	5,071 件	6,592 件	国内件数：6,566 件 海外件数：26 件
4. 文献複写依頼件数	859 件	754 件	国内件数：594 件 海外件数：160 件
5. 他機関の利用申請	168 件	124 件	紹介状発行：47 件 利用照会：77 件
V 館内資料の文献複写利用			
1. 文献複写枚数 (館内備付複写機利用)	684,035 枚	602,051 枚	校費用 (4 台)：69,821 枚 私費用 (6 台)：532,230 枚
2. コピーデリバリー・ サービス	111 件	97 件	
VI 館内施設利用			
1. 研究個室	5,331 人	5,183 人	延利用件数：9,402 件
2. サテライトラボ (施設利用) (PC 利用者数)	7 件 35,963 人	23 件 28,430 人	延利用人数：563 人
3. グループ研究室	689 件	546 件	延利用人数：3,434 人
4. 共同研究室	557 件	804 件	延利用人数：1,734 人
5. 無線 LAN	—	51,537 人	
VII ラーニング・コモンズ			
1. 総合サポートカウンター 質問件数	154 件 (12月～3月)	519 件	平成 21 年 12 月サービス開始 IT 関連：202 件 利用指導：159 件 所蔵調査：60 件 事項調査：12 その他 86 件
2. PC 利用者数	—	108,247 人	
3. セミナールーム (A, B 利用件数)	56 件	111 件	延利用人数：1,457 人
4. プロジェクタ利用件数	9 件	59 件	延利用人数：631 人
5. 視聴覚ブース	176 人	217 人	
VIII 電子図書館サービス			
1. 電子ジャーナル利用件数 (全文表示)	1,506,395 件	1,803,286 件	EBSCOhost：31,391 件 ScienceDirect：691,438 件 SpringerLINK：141,952 件 WileyOnlineLibrary： 204,928 件 ProQuest：13,677 件 Emerald：1,776 件 PAO：108 件 ACS：250,470 件 Nature：143,301 件 Science：40,114 件 OUP：39,750 件 BioOne： 2,488 件 Annual Review：11,154 件 Cambridge： 10,665 件 OVID：22,405 件 (※利用統計が採取でき る主なものを掲げた。)
2. オンライン検索セッション数	181,265 件	201,837 件	MAGAZINEPLUS：5,254 件 Web of Science： 87,454 件 JCR：13,568 件 MEDLINE：15,127 件 BA：9,234 件 ERIC：7,559 件 PsycINFO：20,006 件 Cochrane：34,711 件 CINAHL：8,924 件 (※利用 統計が採取できる主なものを掲げた。)
3. OPAC アクセス件数	1,655,805 件	1,363,331 件	学内件数：905,189 件 学外件数：458,142 件
4. 図書館 HP アクセス件数	7,104,158 件	7,107,204 件	学内件数：3,807,956 件 学外件数：3,299,248 件
IX NAGOYA Repository			
1. 登録件数	9,938 件	11,587 件	学術雑誌掲載論文：2,600 件 学位論文：942 件 紀要： 7,314 件 教材 71 件 その他：660 件
2. ダウンロード件数	910,439 件	999,273 件	学術雑誌掲載論文：207,300 件 学位論文：196,001 件 紀要：498,593 件 教材 37,665 件 その他：59,714 件

名古屋大学附属図書館 2011 年秋季特別展のお知らせ 「そろばんと和算書 ー日本の計算文化にふれるー」

平成22年度受入の藤本保紀氏寄贈資料は江戸時代後期から幕末にかけての和算書およびそろばんとそろばんに関連する資料群から成り、算額や明治期の算数、計算の教科書、引き札なども含まれています。今回の展示では、これらの資料の紹介を兼ねて、庶民が和算ひいては計算するということにいかにか熱中していたかを、種々のそろばんやそろばんのあらわれる資料、和算書や算額をとおして紹介します。江戸時代の和算書、金生山明星輪寺（大垣市）の算額、珍しい「百桁そろばん」などの展示をご覧いただけます。小・中・高校生の皆さんには、変わったそろばんを試したり、ゲームなどで日本の計算文化にふれる体験コーナーもあります。多数のご来場をお待ちしております。



＜展示会＞

期間：2011年10月14日（金）～

11月4日（金）（土・日・祝日も開室）

時間：9：30～17：00（入場は16：30まで）

場所：名古屋大学中央図書館4階 展示室

※入場無料

＜講演会＞

日時：2011年10月29日（土）

14：00～16：00（予定）

場所：名古屋大学中央図書館5階多目的室

※入場無料

講師および演題：

藤本保紀（日本数学史学会会員・

珠算史研究学会会員）

「そろばんの繪・色色」

深川英俊（名古屋大学非常勤講師 理学博士）

「和算書と算額」

2011 年度名古屋大学ホームカミングデイ ～附属図書館行事

10月15日（土）に第7回名古屋大学ホームカミングデイ（創基140周年）～地域と大学で考える 未来を耕す「人・緑・食」～が開催されます。

附属図書館でも、各種行事を準備して皆様のご来場をお待ちしております。

◆秋季特別展「そろばんと和算書 ～日本の計算文化にふれる～」（9：30～17：00（入場は16：30まで）4階展示室）

江戸時代の庶民は計算好きだった？！江戸から明治にかけての和算書と算額（額や絵馬に数学の問題や解法を記して、神社や仏閣に奉納したもの）、さらに、そろばんとそろばんにまつわる資料を展示します。実際にツルカメ算等を体験できるゲームコーナーもあり小学生・中学生でも楽しめます。

◆中央図書館スタンプラリー（8：45～16：30）
「大学図書館ってどんなところ？」おすすめ

